

緩和ケアと心不全について

～緩和ケアの対象患者は がん患者だけではない～



薬剤部
一般社団法人
日本医療薬学会認定
がん専門薬剤師

松本 拓真

緩和ケアと聞くとがんの末期を対象に辛い症状を和らげることをイメージすることが多いと思います。しかしながら世界的に見てみると、対象患者はがん患者だけではありません。実際、人生の最終段階に緩和ケアを必要とする患者の疾患別割合の1位は心血管疾患、2位にがんとWHOの報告では言われています。(図1) 2018年度から心不全の緩和ケアに対して保険が適応となり、緩和ケアの領域において近年注目されている「心不全」について紹介します。

心不全とは？

心不全とは、心臓が悪いために、息切れやむくみが起こり、だんだん悪くなり、生命を縮める病気です¹⁾。

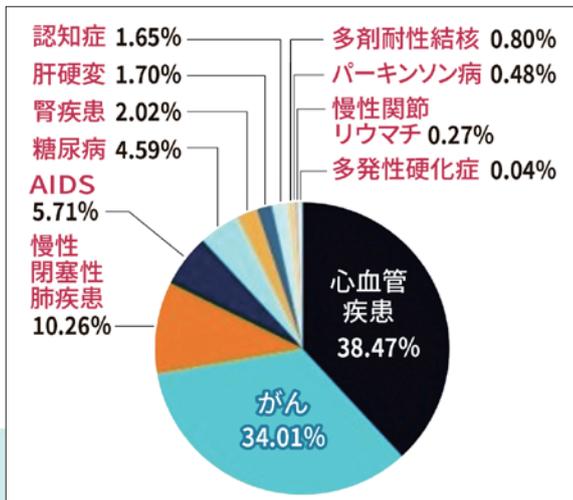


心不全の緩和ケアとは？

心不全では、長年にわたり病気が悪化と回復を繰り返しながら徐々に病気が進行し、比較的症状が軽い段階でも、急に症状が悪化して突然亡くなることもあります。がんとは異なり病気の悪化の速さから、患者さん・家族には心の準備が難しいことが多いといわれます。(図2)

心不全は重症度に応じてステージA～Dに分類され、ステージC以降で緩和ケアの介入が必要となることが多いです。強い呼吸困難や狭心痛などには鎮静剤の使用も検討されることから、一定の時期からは心の準備も含めた緩和ケアを実施することが望ましいといえます。

【図1】



心不全患者の終末期における苦痛の頻度と主に使用される薬剤²⁾は？

- 呼吸困難 60-88% モルヒネ、オキシコドン、コデイン
- 全身倦怠感 69-82% デクスメトメジン、ミダゾラム
- 疼痛 41-77% アセトアミノフェン、プレガバリン、トラマドール
- うつ 9-36% ミルタザピン、セルトラリン、エスチタロプラム
- 混乱 18-32% リスペリドン、ペロスピロン、クエチアピン、ハロペリドール

心不全の患者さんにおいては、まだ緩和ケアという言葉が病氣と結びついていないことも多いと思います。まずは心臓の病氣でも緩和ケアを受けられるということを知っていただくことが大切だと思います。

- 1) 一般社団法人日本循環器学会
- 2) 心不全緩和ケアの薬剤業務に関する進め方 社会法人 日本病院薬剤師会

【図2】

